中野区　北原児童館

子どもの「やってみたい！」を表現するイベントの実施

取組の背景・目的

北原児童館では、毎年 12 月に“ジングルベルマッチ”という運動系のイベントを開催していた。夏には、学校の体育館を借りて児童館まつり“こども縁日”を実施しているが、その中で、ボランティアの高校生が自ら「歌いたい！」と舞台の上で歌を披露してくれた。そのことをきっかけに、今年の“ジングルベルマッチ”は、自分たちのやりたいことを表現する場として呼びかけ、出演者を募って実施した。

【目的】

・自分の得意なこと、「やってみたいこと」を人前で発表することにより、緊張感のある中で達成感や自己肯定感が得られるようにする。
・一人や仲間たちと「やってみたいこと」を実現するため、また、観客にも楽しんでもらうために、どのような準備や練習が必要か、スケジュールから考えることにより、考える力・見通す力・人と調整する力・やりきる力などを育む。
・友だちの発表を見ることにより、友だちの良い所に気づいたり、認めたりする経験をする。また、次は自分もこんなことをしてみたいと意欲を引き出す。
・準備や本番もみんなで楽しく取り組み、会場全体で一体感を感じられるようにする。

取組の概要

募　　集・・１１月初旬におたより、ポスターにて出演者及び観客募集。学童クラブに協力要請。
実施日時・・１２月２５日（木）１４：００～１６：００（準備、片付け含む）
実施場所・・準備活動：北原児童館（制作や練習、打ち合わせなど）
当日：北原小学校体育館（児童館より徒歩２分）
準備活動・・企画書作成（メンバー、スケジュール、必要物品等）。「やってみたい」の内容は自由。体育館の舞台でできるもの。当日までに３回以上来館し、制作や練習などを行い、担当職員に進捗状況を伝える。
保護者への周知・・準備活動、物品準備等の協力を依頼し理解を得る。本番までの流れを周知。
学童クラブとの連携・・学童クラブ所属の出演者や保護者へ、練習や当日参加時間等の調整。
物　　品・・児童館や学校にあるものは貸し出し、借用する。または出演者や協力者の自宅から持参する。足りないものは作る。
学　　校・・会場となる体育館舞台や音響などの機材借用手続き。学校施設管理の主事と掲示物や子どもたちの導線について調整。
児童館職員・・担当職員が活動しやすいよう活動期間中の役割分担を調整。
活動の様子・・週に２、３日程度出演者がそれぞれ来館し、制作や練習などの準備を行った。予定日以外に自主的に集まり、準備をすることもしばしばあった。
演　　目・・コント、楽器演奏、合唱、漫画宣伝、カポエラ、セッション、スポーツ対決など。
当日の運営・・児童館職員３人、非常勤１人、中学生ボランティア１人、学童クラブ職員５人
出演者・・小学生４０人・高校生１人・職員８人

工夫点・留意点

自作漫画の宣伝と
次作のキャラクター募集

- 日頃から子どもたちとの会話の中で、子どもたちが何を考え、何を望んでいるのかをキャッチするように心がけた。
- 子どもの「やってみたい！」には実現が難しそうなものもたくさんあったが、「無理」と言うのではなく、どうしたら子どもたちが納得できるものになるかを一緒に考え、可能な限りやりたいことが実現できるようにした。
- 準備活動を児童館の日常活動の中で行うことにより、当日参加できない一般の来館者や乳幼児親子にもその様子を見てもらうことが出来た。

クラブの合唱　職員のギター・ピアノ伴奏付

- 学校、学童クラブ、保護者、他職員など、子ども以外との連携が必要だったため、情報の共有や手続きなどの不足がないかなど重ねて留意した。
- 普段使用しない学校の機材を借用するにあたり、使用方法の確認は複数人で入念に行った。
- 職員も演目に参加する部分を作り、見守りだけではなく、大人も全力で取り組み、楽しさを共有した。技術的なお手本になったり、大人も失敗することがあることを見せたり、継続することの意味を体験して感じてもらえるよう、日常の活動でも意識している。

高校生と職員のセッション

- プログラムの最後に、地域の方々から寄付のあったおもちゃなどを、出演者と観客に参加の景品として渡した。地域協力者の紹介と、物品のリユースにもつながった。

取組の効果

- 職員のアドバイスは積極的には行わず、子どもが思ったようにやってみるという点を重視した。継続や成立が困難な場合は助言を行ったが、助言をするかしないかの匙加減は、職員の成長にもつながると感じた。
- イベント終了後、「楽器を演奏してた子だよね」「出演していたよね」と出演者の子どもたちが声をかけられるなど、新しい友だちとの交流が増えた様子がみられた。
- 「〇〇やってみたい！」と児童館に自分の意見を出す子どもが増えた。
- 職員も一緒に取り組んで楽しんだことにより、子どもたちとの関係性がさらに良くなった。

課題・今後の展開

- インフルエンザの流行により、本人が罹患するなど、学級閉鎖など参加できない子どもたちがいた。開催時期や場所など、検討が必要である。
- 初めて使用する機材の調整は予想以上に難しかった。舞台上部の照明のみを使用したため観客から顔が見え難く、スポットライト使用の検討が必要だった。
- 中高生２名がボランティアとして参加してくれた。もっと中高生が参加できるよう、積極的にPR していく。PR 方法の検討も必要。
- イベント一回だけでは、目に見える効果は出ない。児童館は子どもたちの思いの実現に向けて、相談にのり、一緒に取り組むことができる場であることを知らせ、継続的に取り組んでいく。